

高村光太郎《運命児男子頭部》1905年*



高田博厚《カテドラル》1937年*



荻原守衛《文覚》1908年*



ジャン・アルプ《のんびりする鳥》1966年*



札幌芸術の森開園40周年記念

彫刻三昧

ざん

まい

題字 檜原武正

札幌芸術の森美術館の名品50選

2025年 10月11日(土) ~ 2026年 1月4日(日)

休館日: 月曜(祝日の場合はその翌日)、及び年末年始(12/29~1/3)
開館時間: 10時~17時(入館は16時30分まで)

主催: 札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館
(札幌市芸術文化財団)
後援: 札幌市、札幌市教育委員会

本郷新記念札幌彫刻美術館
Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo

オーギュスト・ロダン《眠れる女裸婦》1887年*



エミール・アントワヌ・ブールデル《アポロンの頭》1900年*



シャルル・デズビオ《リュシアンリエール》1918年*



アリスティード・マイヨール《パンセド・ビュッシー》1930年*





オーギュスト・ロダン《ヴェールを持つ踊り子》1908年*



マリノ・マリニ《騎馬像》1943年*



アレキサンダー・アーキペンコ《マドンナ》1936年*



篠田守男《Tension & Compression 4417》1975年*

国内外の近現代彫刻史を彩る作家の作品をたっぷりと楽しむことができる展覧会です。

彫刻に生命の息吹を吹き込み「近代彫刻の父」と言われるロダン。その影響を受けながらも独自の造形を開花させたブールデル、デスピオ、マイヨール…。また、ドガやルノワールなどの画家も絵画の作風そのままに彫刻を手がけています。さらに、キュビズムの彫刻への応用や、再現を離れた純粋な抽象化へ挑戦、戦後イタリアでの新たな具象の試みなど、次々と立体造形の可能性を広げる斬新な表現が生み出されていきました。

日本においても、海外の動きを受容しながら、伝統的な美意識とも照らしつつ、切磋琢磨するなかで、多彩で豊かな展開がみられます。そこには、戦後、街なかや公園などへの彫刻設置が全国的に盛んになるという追い風もありました。

1986年に開園した札幌芸術の森は、来年40周年を迎えますが、そのメイン施設である野外美術館には、二度の拡張を経て、日本彫刻が最も勢いがあったと言われる'80〜'90年代を代表する彫刻家の作品が多数設置されています。札幌芸術の森美術館では、その多種多様な表現につながる近代以降の流れをたどれることを目指して開館準備段階から収集を続け、国内有数の彫刻コレクションを形づくってきました。

本展は、その中から厳選した50点を展示するものです。魅力溢れる彫刻の数々をお楽しみください。

出品作家 (生年順)

エドガー・ドガ (1834-1917)
 オーギュスト・ロダン (1840-1917)
 オーギュスト・ルノワール (1841-1919)
 エミール＝アントワーン・ブールデル (1861-1929)
 アリスティード・マイヨール (1861-1944)
 シャルル・デスピオ (1874-1946)
 ジャン・アルプ (1886-1966)
 アレキサンダー・アーキペンコ (1887-1964)
 オンシップ・ザッキン (1890-1967)
 ジャック・リブシッツ (1891-1973)
 マリノ・マリニ (1901-1980)
 パーバ・ヘップワース (1903-1975)
 ジョージ・リッキー (1907-2002)
 ジャコモ・マンズー (1908-1991)
 ペリクレ・ファッツィーニ (1913-1987)
 アルナルド・ポモドーロ (1926-2025)
 マルタ・パン (1923-2008)
 フェルナンド・ボテロ (1932-2023)
 ホルスト・アンテス (1936-)
 戸張孤雁 (1882-1927)
 高村光太郎 (1883-1956)
 藤川勇造 (1883-1935)

荻原守衛 (1879-1910)
 石井鶴三 (1887-1973)
 中原悌二郎 (1888-1921)
 保田龍門 (1891-1965)
 清水多嘉示 (1897-1981)
 高田博厚 (1900-1987)
 菊池一雄 (1908-1985)
 吉田芳夫 (1912-1989)
 佐藤忠良 (1912-2011)
 舟越保武 (1912-2002)
 千野 茂 (1913-2002)
 本田明二 (1919-1989)
 坂垣道 (1920-1998)
 下田 治 (1924-2000)
 秋山沙走武 (1930-2001)
 砂澤ビッキ (1931-1989)
 篠田守男 (1931-)
 米坂ヒデノリ (1934-2016)
 伊藤隆道 (1939-)
 関根伸夫 (1942-2019)
 國松明日香 (1947-2025)
 植松奎二 (1947-)



保田龍門《裸婦立像》1927年*



菊池一雄《バックアント》1962年*



舟越保武《杏》1982年*

会期中の催し

サンクスデー 10月19日(日)

- この日のみ観覧料無料
「彫刻三昧」展と記念館の展示を無料でご覧いただけます。
- 講話「彫刻の楽しみ方〜超入門編」
スライドを使いながら、彫刻鑑賞のコツをわかりやすく紹介します。
①10:30〜11:00 ②13:30〜14:00
会場：本館研修室 講師：吉崎元章(当館館長)
- 手話によるアート鑑賞会
耳の不自由な方を対象に、手話で作品について語り合う鑑賞会を行います。(札幌アートコミュニケーターズ企画)
14:30〜15:30 会場：本館展示室

その他、パフォーマンスやクイズ、近隣散策、彫刻を清掃しながらの鑑賞などのプログラムも予定しています。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

写真撮影 *印：前澤良彰、◇印：小椋安幸



國松明日香《秋霖》2006年*

写真撮影 *印：前澤良彰、◇印：小椋安幸

観覧料
 一般 600円(500円)
 65歳以上 500円(400円)
 高校・大学生 400円(300円)
 中学生以下無料
 ()内は10名以上の団体料金
 本郷新の彫刻を常設展示している
 記念館も合わせてご覧いただけます。



交通アクセス

- 公共交通機関をご利用の場合
地下鉄東西線「西28丁目」駅/バスターミナル2番のりばからジェイ・アール北海道バス山の手線(循環西20(神宮前先行))乗車(約5分)、「彫刻美術館入口」下車、徒歩約10分
- タクシーをご利用の場合
地下鉄「西28丁目」駅から約5分
- お車をご利用の場合
市内中心部より約15分(無料駐車場10台あり)

本郷新記念札幌彫刻美術館
 Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo

札幌市中央区宮の森4条12丁目
 電話 011-642-5709
<http://www.hongoshin-smos.jp>

最新情報はSNSで更新中

